

## 議 事 録

会議名	令和2年度川西市総合教育会議(第2回)		
事務局(担当課)	企画財政課		
開催日時	令和3年3月25日(木) 16時30分から17時30分		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	川西市 越田市長  川西市教育委員会 石田教育長、服部委員、坂本委員、治部委員、佐々木委員	
	関係職員	石田総合政策部長、大西教育推進部長、中西こども未来部長、 船木総合政策部副部長	
	事務局	総合政策部企画財政課 今岡課長、足立	
傍聴の可否	可	傍聴者数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 議事 教育課題への取り組みについて 3 その他		
会議結果			

## 会議経過

発言者	発言内容等
事務局	令和2年度第2回川西市総合教育会議を開会する。開会にあたって、総合教育会議の主宰者である越田市長から挨拶をお願いする。
越田市長	<p>今日は、二つの議題がある。</p> <p>一つ目は、就学前の幼児教育について、幼稚園を今後どうしていくか、子供の減少、施設の老朽化、公立と私立の格差などもあり、今後川西市として幼児教育をどのように残していくかを考えていきたい。</p> <p>二つ目は、コロナの影響により、自然学校など泊まりの行事が難しい中、自然に触れてもらえる環境をどのようにつくるか。地域の自治体で運営している丹波少年自然の家から一番大きい尼崎市が脱退する中で、川西市もどういう形で子供たちの自然体験をしていくのか。</p> <p>決断ができるヒントになるような会議にしたいと思う。</p>
事務局	会議の進行について、市長をお願いする。
市長	では、教育課題の取り組みについて、石田教育長から説明をお願いする。
教育長	<p>課題としては、二点ある。</p> <p>一点目は、幼児教育保育施設のありかた。</p> <p>二点目は、環境体験・体験教育の充実・連携していくか。</p> <p>まず、現在の幼児教育の状況等について、中西部長から説明する。</p>
中西部長	<p>幼児教育施設、とくに幼稚園の現状について説明する。</p> <p>0歳から2歳 保育所が 33%、その他(保護者、家庭で養育されてるケース)が 67%</p> <p>3歳から5歳 幼稚園 54.5% 保育所が 39%</p> <p>出生数は、減少傾向にあり、平成 20 年 1284 人、令和2年 864 人と比べると 30%以上減少している。</p> <p>保育園は、平成 26 年度までは増加傾向だが、その後は横這いで、減少傾向にある。</p> <p>こども園は、平成 27 年度に初めて市内で開設し、そこから大きく増加している。</p> <p>背景としては、幼稚園は園児数が減少していること。保育園は、一定園児数、児童確保が出来ているが、将来を見越したときに、幼稚園機能と保育所機能を持ったこども園のほうが、一定の人数を確保しやすいという判断がある。</p> <p>こども園は、新しい施設ができることに加え、これまでの幼稚園や、保育園であったところから移行してきているため、増加している。</p> <p>幼稚園の利用者が減少している。幼児教育は義務教育でないこともあり、公立幼稚園の割合については、全国平均で 15.9%という数字になっている。</p> <p>川西市では、昭和 40 年代から大規模団地開発が進んだ時期において、公立幼稚園だけでは対応出来ないことから、私立幼稚園を誘致した経緯がある。</p>

発言者	発言内容等
中西部長	<p>誘致した幼稚園は、清和台地域、多田グリーンハイツ地区、湯山台地区、北陵地区の4園である。誘致した経緯から、本市の幼稚園教育については、公立幼稚園と私立幼稚園で、それぞれ役割を分担し、進めてきた。</p> <p>令和2年度の園児数の比率は、公立が21%、私立が79%である。</p> <p>令和3年度公立幼稚園の入園募集は、園児数が1桁のところもあり、多くても14人というような状況になっている。</p> <p>私立でも、一部の幼稚園を除いて、定員に満たない状況が続いており、公立と私立のいずれにおいても、厳しい状況にあるものと認識している。</p> <p>公立幼稚園のあり方については、現在、子ども子育て会議において協議をしている状況である。</p>
越田市長	<p>社会背景としては、子供がそもそもとして減ってきている。働き方やライフスタイルが変わってきているので、午前中だけより長い時間預かってもらえるところが必要になっている。</p> <p>私立幼稚園を誘致した経緯があるので、それをカバーできる公立幼稚園をつくるのは厳しく、前提となる幼児教育が何かという議論をしなければならない状況にある。</p>
治部委員	<p>公立幼稚園の規模が小さくなっていく中で、教育委員会としてどんなサポートをしていけばその質が確保されるのかに、目を向けていきたい。</p> <p>川西市として、幼児教育保育のガイドラインが少し弱い。環境の指標を入れ、大きな指針を設けて、実地指導していくようにしたいと思う。</p> <p>学びのスタイルが、「大人が教えたものを学んでいく」から「子供たちが環境の中からやりたいことを自分で見つけて学んでいく」に変化しており、環境の重要さをもう一度見つめ直す。経済的格差解消、特別支援を求める児童に対する教育の質の担保は、公立が担ってきた部分なので、市の独自のガイドラインを設けて、私立と共同で連携しながらすすめていく方がよいのではないかと。</p>
坂本委員	<p>自身の子育ての経験からも、歩いて行ける地元の幼稚園は安心できる。ただ少人数の中で、どう育っていけるかは、難しいとも感じる。なので、先ほど治部委員の意見にもあった、公立幼稚園だけでどうにかするのではなく、私立の幼稚園と連携しながら、子供の幼児教育を考えていくことが必要だと思う。</p>
越田市長	<p>清和台幼稚園の応募が、一桁しかいない。</p> <p>5人や10人で、幼児教育、子供たちの学びべきことを学び取ることができる環境なのかと危機感を持っている。</p>
佐々木委員	<p>地元で安心するという安心感を求める方もいれば、特色を出している私立がいいという人もおり、ニーズは様々なので、選択肢が多様であれば、若い子育て世代の誘致にも繋がって、ひいては川西市の発展にも繋がると思う。</p> <p>特色のある私立とは違った、市にしか出来ない幼児教育を提供する必要がある。</p>
越田市長	<p>教育長と一緒に、清和台幼稚園の保護者の方といろいろ議論したが、様々なニーズがある。給食が絶対であるとか、地元に近いところの幼稚園が安心であるとか。</p>

発言者	発言内容等
越田市長	<p>子供の数が減っているので、少人数または大人数の幼稚園を求める方が、一つの地域にいた場合に、応えるだけの子供の総数が足りないことが、非常に厳しい状況だと率直に感じている。</p> <p>ガイドラインを作っていくことやセンター的な機能という幼児教育保育に対する行政の役割など様々議論があると思う。</p> <p>服部委員からも話を伺いたい。</p>
服部委員	<p>人間は生物であって、自然を知るべきである。小学校3年生では遅いので、幼児教育のときから学ぶ方がよいと思う。私立の幼稚園で指導をするのは難しいと思うので、新しい課題を取り込む意味で公立幼稚園の必要性がある。全部残すというわけではないが、ガイドラインを作ったり、センター的な可能性を考えたり、少数でも公立幼稚園は必要だと思う。</p>
越田市長	<p>幼稚園の先生が、田畑や山に自然に行くなどの経験をした世代ではなく、教育として行っている状況のため、子供たちに伝えることが非常に難しくなっていることを実感している。</p> <p>自然の体験など工夫している園の事例はあるか教育長に伺いたい。</p>
教育長	<p>以前は、公立幼稚園の持ち回りで、年度ごとに公園に行く授業していたが、現在は、ボランティアや地域の方々の協力のもと、子供たちが自然を体験するという活動をすべての公立幼稚園が行っている。公立だけでなく、私立や民間も地域と連携し、同じような活動を行っている。</p>
越田市長	<p>公立幼稚園しか出来ないこと、川西市の幼児教育保育の根の部分を作っていきたい。一方で、施設の件も含めて、子供の人数が、極端に少なくなっているところに関しては、今後子ども子育て会議の中で議論する必要があるので、少し同時並行になるが、協議をしていきたいと思う。</p>
教育長	<p>次に、2点目の議題です。川西は、環境体験学習を特に意識している。</p> <p>ふるさと川西を意識させるために、市長部局とどんな連携を模索していくのか。</p> <p>まずは服部委員から問題定義していただきたい。</p>
服部委員	<p>どこの市町でもふるさとを周知するような活動を行っている。ふるさとを周知できるものが、どれくらいあるかが重要であり、川西市の場合は、県のレッドリストに載っている約30ヶ所。その内、教育委員会で約9つ天然記念物を指定しており、自然だけでなく、多田神社や加茂遺跡などの貴重な歴史遺産も含めて、ふるさと川西を意識させるための素材は、揃っている。川西市には、3年生の環境体験学習、4年生の里山体験、5年生の自然学校があるため、体験学習を通じて、ふるさと川西を意識させるということは非常に重要だと考えている。</p> <p>実際に学習を通じて、ふるさと川西に意識を持った人もたくさんおり、一番素晴らしいのは、市民団体がその体験学習を応援してくれていることである。それも他の市にはない大きな特徴だと思う。兵庫県では、人口密度が高い川西市と三田市と神戸市の西区ぐらいしか可能性がない。その中で市民団体が一番育っているのは、川西市である。</p>

発言者	発言内容等
服部委員	<p>市民団体との連携は、教育委員会だけではできない。清和台、水明台、大和団地の市民団体が活動している場合は、公園部局が持っている土地で行われており、公園部局と市民団体の連携がなければ、市民組織も育たない。</p> <p>また、自然の重要性に関しては、教育委員会として、天然記念物指定という形で非常に速いスピードで動いており、川西では9年間で9つ指定しており、他の市ではほとんど指定してないという状況である。</p> <p>自然の重要性のアピールは、環境衛生課の仕事である。市民団体のリストなどを作ったりしているので、環境衛生課との連携も非常に重要である。</p> <p>もう一つは、黒川景観形成重点地区の景観ガイドラインを作っている都市政策課である。資料は、非常によくまとめているが、教育委員会からの重要な視点や分析などの情報があまり出ていないため、都市政策課との連携も重要である。ふるさと川西を子供たちに意識を持たせるためには、教育委員会で独自ではなく、市長部局との連携が予算の観点も含めて必要である。</p>
越田市長	<p>川西は全体的に歴史的には(何か奥ゆかしい性格を持っているのか)、あまり外に向けて発信をしてないように感じる。黒川は、昔からずっとあるにもかかわらず、近年になってようやく市としての発信が出てきたと感じている。</p>
教育長	<p>現状の環境体験学習、里山体験学習活動、自然学校の問題提起があったが、現状どんな活動をしているのかを、教育推進部長から説明する。</p>
教育推進部長	<p>本市の小学校の体験学習について、資料で令和元年度の本市の各体験学習の実施状況を示している。兵庫型体験学習として、小学校3年生で環境体験学習、5年生で自然学校を実施している。3年生の環境体験学習は、子供たちが地域の自然に出かけて行き、地域の人々などの協力を得ながら、自然観察や栽培、飼育等の五感を使って自然に触れ合う体験型環境学習を、年3回以上継続的に実施している。</p> <p>本市の状況は、資料の令和元年度環境体験学習事業活動計画に基づき、令和元年度の実施回数は3回から5回、学校の実情に合わせて、地域ボランティア団体等の協力を得ながら、様々な自然体験を実施している。</p> <p>5年生の自然学校は、4泊5日以上ということで、県内の施設を使用し、日常生活では経験出来ない感動体験、周辺の自然についての学習、そこに住む人々との関わりなどを自然学校で指導することによって、長期宿泊体験の意義を踏まえた活動を行っている。</p> <p>小学校5年生の状況は、令和元年度自然学校推進事業活動計画に示している。南但馬自然学校、丹波少年自然の家、嬉野台生涯教育センター等の施設を使用し、実施をしている。</p> <p>本市の独自の取組として、小学校4年生において、市内の黒川地区を舞台とした里山体験学習を実施している。</p> <p>各校の実施状況は、資料の里山体験学習、実施結果一覧に記載している。</p> <p>各学校が、年間2回実施している。本市では、県の事業と連動し、3年生で地域の自然学習、4年生で市内の自然学習、5年生で県内の自然学習と継続的に実施することで、子供たちに自然に対する畏敬の念を始め、生命の繋がり、環境保護の大切さなどを実感させ、美しさに感動する豊かな心を育むなどの目的で、自然学習体験を実施している。</p>

発言者	発言内容等
坂本委員	<p>3年生、4年生、5年生と学ぶ機会があるのは、兵庫県に住んでいる子供たちにとっては、貴重な体験だと思う。</p> <p>ただ一覧表を見ていると、隣の大阪府に出ているケースもある。川西の豊かな自然やサポートしてくれる団体も豊富にあるので、地元の資源や人材を有効活用できるようにし、情報が分散しているなら、その情報を一元化して、場所の提供や講師の派遣等について、柔軟に対応できるようになれば、よりよくなると思う。</p>
越田市長	各学校は、活動団体とどのような形で接点をもっているか。
教育推進部長	基本は、各地域で見つけて欲しいという気持ちがあるが、どうしても地域で見つけない場合は、他の地域の人からの紹介などから、場所を見つけていく。
教育長	教育委員会は、自然と人を結びつけるために、地域の人材や自然の情報を整理し、各学校に提供していかないといけない。
越田市長	現場の職員が、自分たちで頑張ろうとしてしまっており、SOSを出さない結果、他との連携が出来ていない。困り切ってからSOSを出しても、助け合うことが出来ないのので、環境衛生課が持っているテーマに、教育委員会が相談に乗って行くという体制を来年度取り組みたいので、また時期が来たら、声をかけていただくようお願いしたい。
坂本委員	市民団体がたくさんある中で、教育委員会の方から、「こういうことを伝えていきたい人いませんか」と要請していくようなアクションがあってもいいかと、自分の小学校周辺の地域を知ることを形にする意味では、そういう働きかけが必要と思う。
越田市長	活動を助けてほしい人や活動をしたい人が、それぞれ眠っていて、ここがなぜ繋がらないんだということを、こんなことをしていきたいなと思っていることを、紹介してもらいたい。
船木副部長	<p>昨年度から、参画と協働のまちづくり推進会議で、地域、或いは市民活動等での新たな担い手の確保というテーマで、議論した。その中で、二つ大きく方法論を分けている。</p> <p>一つは、関心があるが、どのように踏み込んでいけばいいかわからないという方。</p> <p>二つは、気が付けば参加していたという方。</p> <p>担い手を確保するために、ポップな求人票を作って、地域にまいたり、必要な人材の仕組づくりを作っていくことが必要である。</p>
越田市長	必要な人材のSOSを出し、それを見て参加してもらえる仕組みを広められたら良い。
石田部長	ゲーム感覚から入るのがとっつきやすく良いと思う。

発言者	発言内容等
治部委員	ゲーム感覚というのは良いと思う。ICTなどを利用して、知名度を高めていく必要がある。それにより、クラウドファンディングなどの動きにもつながる。幼児教育においても、自然環境というものは重要。
越田市長	現場の困り事が直接繋がっていない。緑地はすべて公園緑地課が所管になっているのか。
石田部長	そうになっている。ただ、森林ボランティアに対しては産業振興課から少しだが補助している。
越田市長	行政の横の連携をすることで対応できることが増えてくる。 丹波少年自然の家から尼崎が脱退を表明した。丹波少年自然の家がない場合、今後子どもたちがどこで学ぶことができるか考えないといけない。
服部委員	南但馬自然学校の学長をしているが、すでに一杯になっている。冬以外は余裕がない。丹波少年自然の家がなくなると、もはや自然学校ができなくなる。なぜ自然教育が必要なのかと言うと、学校教育では視覚・聴覚は学べても、嗅覚・味覚・触覚は外に出ないと学習できない。人間は五感で生きているので、自然の中で学ぶ機会は重要である。
越田市長	幼児教育と環境教育は別々にあるのではなく、つながっている。 尼崎の脱退は想定外であったため、まだ脱会のルールもできていない。それらについては、今後検討していくこととしている。市長就任後、総合教育会議を2年半行ってきたが、市としての意思決定の前段階における意見交換の場としての位置づけであると今は考えている。
服部委員	日本一の里山を証する文献をたくさん持っているので寄贈したい。
越田市長	寄贈に関しては、教育委員会事務局のほうでお話をお伺いさせていただきたい。これをもちまして第2回の総合教育会議を閉会する。本日はありがとうございました。

以下会議の事項を記録し、相違ないことを認めたので、ここに署名いたします。

令和 3年 5月 27日

川 西 市 長 越 田 謙 治 郎

川西市教育長 石田 剛